

P.9 参加者募集!
おおた市民健康意識
向上モデル事業

太田市保健センター
☎0276-46-5115



P.2 新元号へ読み替えてください

P.8 行政センターで「まちなか寄席」



2次元コードから太田
市ホームページにア
クセスできます

太田市役所代表

☎0276-47-1111

おおた



『令和』が始まります。
太田市の明るい
未来に向けて



令和元年記念 トップ対談

市長 × 松本 謙さん

地方創生の一翼を担う「地域商社」。そのトップランナーであり「道の駅うつのみやろまんちっく村」の運営者でもある松本さん。太田の地域資源やこれからのまちづくりなどについて語っていただきました。

4ページへ続く

広報課 ☎0276-47-1812

こんにちは
市長です

久しぶりに東京へ出た(4・10)この日の朝は急に冷えた。卒業式の頃は暖かい日が続き「今年の入学式も桜になりそう」と心配していたけど入学式が続く4月の初めは冷えが戻った。全国市長会関東支部役員会が千代田区平河町で開かれた。私が関東の支部長をやっているため、関東各市の市長さんに集まってもらったのである。「神奈川県に入ったら雪でした。早めに出掛けて正解でした」と山梨県甲斐市の保坂市長さん。昼に終えて新幹線に乗ると、途中雪が窓を打ち付けはじめた。「今頃雪!」。ほとんど記憶がない春の雪である。過去にさかのぼると「昭和の終わり」の春、雪が積もったと聞いた。期せずして「平成の終わり」のことである。熊谷駅前にある一本の桜の花びらに小さな雪のかげらが乗っている。花びらはピンクを淡くして膨らんでいるように見えた。自宅まで送ってもらい、自分の車で市役所に向かう。保健センターの大きなケヤキは芽吹きが始まり、日に日に緑の真綿が色を増し、黒褐色の枝木を覆うようになっていく。ケヤキだけを見ればこの季節のいつもの光景である。そこには葉桜がなくはない。満開の桜があるのだから。葉桜と緑を濃くするケヤキが日常であったことを考えれば季節のズレは「いともしろい」季節の変わり目であるのだ。令和元年5月1日、本日新天皇が即位します。希望を感じます。国の象徴、天皇が世の中を変えるわけではない。この機会に、私たちが主権者として、それぞれの役割を果たしていくことを再認識する必要があります。平成は大きな災害が多かった。上皇陛下、上皇后さまは被災地を丁寧に訪問されました。国民に近づいてきてくれました。国民に愛される上皇陛下、上皇后さまでした。これからはお体をゆつくり休め、ご長寿をお祈りします。



マチイロ





心の中にある「ニーズ」をつかむ



地域の人が核となり活性化

市長 地域再生として「道の駅うつのみや ろまんちっく村」を整備したと聞いています。

松本 第三セクターが解体された後の農林公園再生事業に名乗りを上げて12年がたちます。いろいろと仕掛けていけば面白くなる案件だと感じました。

市長 地域住民向けの施設を外向きに広げようと考えたのですか？

松本 当初の運営主体は第三セクターでした。しかし入場に頼るビジネスモデルだと再投資が難しく、だんだん何でもありな施設になり人が寄り付かなくなっていたという状況でした。そこで原点に戻って、農林公園の不便さを残しつつ非日常を楽しんでいただくことで誘客促進を図りました。

市長 成功してよかったですね。立ち上げたのは何歳の時ですか？

松本 40歳ですね。

市長 40というのは結構なんでもチャレンジできる年代ですよね。現状のろまんちっく村はどんな雰囲気ですか？

松本 平成24年に道の駅となり、ローカルとローカルを結ぶ拠点というイメージを持って展開しています。来場者数は年間約150万人となりましたが、ハード整備というよりは仕組みづくりに注力しています。ハコを充実させるのではなく、ハコを集客の装置と捉えてお客さまに地域を巡ってもらい交流を楽しんでいただいています。

市長 市外からの来客が多いですか？

松本 意外と地元の人が多いです。自走する仕組みを作る必要があるため、地元の人に日常使いしていただくビジネ

スモデルで進めています。

市長 地域再生というのは外からの誘客だけでなく、地域の人が核となることで活性化していくように思いますね。

松本 ファンになってリピートしてもらえないとなかなか持続はしていきません。地元の人にも喜んでいただける品ぞろえを考えています。

地域と地域を結ぶ

市長 いま太田では「外のモノで太田を楽しむ」ということを考えています。例えば、北関東自動車道の利点を活かして太平洋の鮮魚を市内で扱うというものです。他地域の特産物が太田に集まるというコトをまちの魅力にしようと思っています。昼間人口がとても多いので、そこをターゲットにしていきます。

松本 私たちの「地域商社」という考えに合致するものですね。地元の人に年間を通じて楽しんでいただくために他地域のローカルブランドを集めながら、地元の産物は外に出していき、地域と地域を結んでいくというビジネスモデルで私たちが進めています。

市長 文化交流も生まれますよね。

松本 私たちは沖縄にも進出しているのですが栃木と沖縄のモノが交流するうちに観光やヒトの交流が生まれていきます。

市長 楽しいね！

松本 すごく楽しいです。

交流が街の認知度を上げる

松本 太田の多様性や文化度の高いインターフェース(接点)、産業、多くの人々の往来があるというのはすごいと感じています。

市長 大学ジャズフェスティバル、ぐんま国際アカデミー、太田国際貨物ターミナルなどを通じて、交流がまちの認知度を上げると実感しています。マチ・ヒト・モノを通じて交流できれば地域が明るくなりますよね。

松本 産業や金山城を切り口とした観光も面白そうですね。今の観光では課題解決などいろいろなテーマをクロスさせて体験する人が多くなってきました。太田のように地域に分散した産業や観光素材を結んでいくと面白いと思います。美術館・図書館もすてきですよ。図書館って行こうと思わないとなかなか行けない施設ですけど、ここは駅の近くで気軽に立ち寄れてアートにも触られるというのがいいですよ。あらゆる世代が利用できますし。

市長 ここが地域おこしの原点になってくればと思います。

これからの太田のまちづくり



これからの太田

松本 市長は今後太田をどのようにされていくお考えですか？

市長 いま新しい工業団地を整備しています。工業出荷額では北九州や浜松を抜いていますが、安定的な財源として固定資産税を確保する必要があります。自走できるまちをつくりたいと考えています。それから、これからは官民のコラボでまちをつかっていく時代ですね。民間が主体となって行政がサポートする体制というのがうまくいくような気がし

ますね。

松本 私もずっとまちづくりをやってきましたが、経済・観光・産業などの横つなぎや自走する仕組みを作るのが民間の役割で、そこに広大な行政のネットワークを生かしていく、それこそが官民協働だと思っています。

市長 おっしゃるとおりですね。民間が入ることで横串になりますよね。人間の行動を変化させるのは民間の役割でそれをサポートするのが役所です。その結果、経済活動により民間が利益を出していくというのが好循環ですよ。この美

術館・図書館の椅子を作ったり積極的にまちづくりをしたりしている「エアアライボオオタ」という若い経営者たちがいますけど、そうやって努力しているところには積極的に協力してよいと思います。

松本 小さい成功体験からネットワークが構築されて活性化していくのがまちづくりなんだと思います。

市長 「ニーズ」という言葉があります。今は「必要」という意味で使ってますけど、人の心の中にあるものを引っ張り出してやりたいと思わせることがニーズなのではないでしょうか。

松本 動機付けられるものですよね？

市長 そうですね。動機付けして商品化したりまちづくりしたりするのがニーズ。世の中になくて「えっ？ こんなものがあったの？」となるのがニーズだと考えています。

松本 最先端ですね。

市長 そういうことをいつも考えています。

Profile フォト

松本 謙さん

株式会社ファーマーズ・フォレスト代表取締役社長。長野県出身。中小企業診断士。おたシティプロモーションアドバイザー。慶應義塾大学卒業後、日産自動車入社。その後平成19年に同社を創業し「道の駅うつのみや ろまんちっく村」の運営など地域商社事業に携わる。

「道の駅うつのみや ろまんちっく村」とは？

46ha(東京ドーム10個分)の広大な敷地に農産物直売所や地域の食材が楽しめる飲食店、体験農場、森遊び、ドッグラン、温泉・プール付きの宿泊施設がある滞在型体験型ファームパーク。昨年の来場者は150万人。

